

第9回備北地域認知症疾患医療連携協議会（H26.3.28）議事録

はじめに：

前回の第8回協議会では、高梁市、新見市、総社市、および吉備中央町の地域包括支援センターに御参加いただき、認知症に関する取り組みについての御紹介、また地域連携についての御指導をいただいた。今回の協議会では、地域における各種支援サービス（デイケア、デイサービス、ショートステイサービス、長期入所生活介護サービス）の概要、役割についての理解を深め、現状での課題を地域全体で共有し、その有効利用について考える場とした。

第一部：認知症ネットワーク研修① 「施設紹介：各種支援サービスの概要・役割・課題」

まつうらクリニックむつみの園より河本様、地域密着型認知症対応型通所介護ハートケアーズらんより宮田様、老人保健施設ゆうゆう村より野崎様、地域密着型特別養護老人ホーム落合の里より菅野様にご参加いただき、それぞれの施設のサービスの特色や地域での役割、今後の課題等について御紹介いただいた。

◎重度認知症デイケア（まつうらクリニックむつみの園）

医療的な関わりが必要な重度認知症の方を対象として、医師の診断のもと、自宅での生活を続けていくために、薬物療法と非薬物療法の両面からのケアを行っている。医療保険適用のデイケアであり、介護認定を受けていない方でも利用でき、希望があれば終末期までケアを提供できる旨などが紹介された。課題として、空きがあること、地域に一つしかない介護保険外のサービスであり、地域での認知度が低く、また地域での認知症に対する理解が十分でないために、サービス利用に繋がらないケースがあることなどがあげられた。

◎認知症対応型デイサービス（ハートケアーズらん）

高梁市在住の認知症の方を対象とした介護保険適用の地域密着型認知症対応型デイサービスで、「ひたすらに笑顔を求めて」を理念に掲げ、身体機能維持や健康管理、外出支援、ボランティアとの交流など、個別プログラムをもとにきめ細かな関わりに力を入れ、利用者や家族の想いをしっかり聴き、家族の介護負担を少しでも軽減し、自宅での生活の維持に向け支援を行っている旨などが紹介された。課題として、空きがあること、サービス利用後の経過や、他のサービスを利用している時の状態や、家庭での様子などの把握が難しいことなどがあげられた。

◎短期入所療養介護（老人保健施設ゆうゆう村）

医療やリハビリが必要な要介護者に対して、短期間入所のうえ、個別リハビリなど計画に基づいたサービス提供を行い、生活機能の維持・向上を図り、介護者の介護負担を軽減し、緊急時の対応を行うことなどで、自宅での生活が維持できるように支援を行っている旨などが紹介された。課題として、予約段階で定員に達するため、新規や緊急性のある利用者の受け入れに苦慮してい

ること、重度の BPSD への対応が困難であること、新規の方、緊急入所の方、医療ニーズの高い方の情報把握の難しさや、他の事業所などとの情報共有の難しさなどがあげられた。

◎長期入所生活介護（特別養護老人ホーム落合の里）

高梁市在住の自宅での介護が困難な要介護認定を受けた方が生活するための地域密着型特別養護老人ホームで、現在、入所者の平均要介護度は 4.5、入所待機者は 40 名である。入所して以降も、入所者のためになる支援を継続的に行うために、家族と連携をはかり、家族と共に入所者の生活を支えることをこころがけている。また、連携医療機関の協力のもと、24 時間体制での看取り介護も実施している旨などが紹介された。課題として、本当に必要とするサービスが受けられるような施設選択ができていないことがあげられた。

第二部：認知症ネットワーク研修②「各種支援サービスの有効利用について」

第一部に引き続いて、河本様、宮田様、野崎様、菅野様にパネリストとしてご参加いただき、「各種支援サービスの有効利用について」をテーマとして、フロアの参加者を交え、討議、情報交換、意見交換を行った。以下に、主な意見を記す。

フロア：現在の利用状況は？ 対応困難となり利用中止にいたったケースはあるか？

すずらん：定員に達しておらず、まだ空きはある。施設側の理由で中止になったケースはない。

むつみの園：定員に達しておらず、まだ空きはある。身体的問題や自宅に対応困難な夜間の BPSD のために入院となり、利用中止になるケースがあった。

ゆうゆう村：通所は満床。ショートステイは調整し利用が可能であるが、長期になると部屋の調整が難しい。

落合の里：特養の入所は、待機者が数十名いる。そのため、小規模多機能型居宅介護で上手に対応している。顔なじみのスタッフがおり、泊りもできる。問題が生じた場合でも、自宅へ出向き対応することで問題ではなくなる。

フロア：事業所間の連携に関して困ることや課題はあるか？

落合の里：家族と本人の思いが違うため、どちらの思いをとるのかという点が難しい。ケアマネが、家族、本人と何回も話し合いながら、本人が本当に必要としているものを探り、思いを皆で共有し支援することが大切である。

むつみの園：サービスが違ふと問題意識も違ふ。他事業所とすり合わせをするための地域担当者会議はあるが、開催スパンが長く、機会が少ない。そのため、連絡ノートを作成し、他事業所へ情報を伝える工夫をしている。

ゆうゆう村：担当者会議では、その時々情報は得難い。ケアマネを通じて情報交換を行っている。連絡ノートなどを共有化する必要性を感じる。

落合の里：ケアマネとの連携は不可欠で、ケアマネを介して家族や他事業所の情報を得ている。

しかし、ケアマネの資質に差があり、ケアマネによって持っている情報量が違うので、ケアマネ以外の職種も社会資源などの知識を持つことが必要である。

事務局：それぞれに情報共有の必要性を感じており、事業所ごとに工夫をされているが、まだ充分ではないというのが現状であろう。担当者会議なども、問題が起きてからの事後対応となりがちで、問題が起きないようにするという視点での連携体制の構築が必要と思う。

事務局：サービス利用者の選択に関して判断基準はあるか？

すずらん：空きがあるため、来るもの拒まず、受け入れ可能。

むつみの園：医療ニーズのある方で、希望者は外来受診してもらい、そこで判断される。基本的に BPSD のある方が対象となる。

ゆうゆう村：ショートステイの利用者は、入所検討委員会で判断される。医療ニーズにも対応可能で、空きがあれば利用可能である。

落合の里：要介護度 3 以上の方が対象で、入所判定委員会で点数化され、順番が決定される。

フロア（デイサービス）：認知症のある方であれば、受け入れる。

フロア（老健）：ショートステイは、診断票に基づき、利用検討会議で判断される。

フロア（グループホーム）：要支援 2 から要介護 3 までの認知症の方、日常生活に一部介助を要する方が対象であり、随時募集中。

フロア（特養）：状態や家族の希望などで、優先的に受け入れる場合もある。

事務局：事業所から利用を断られるケースを少なからずみてきたが、空きが有る限り断ることなく受け入れるという頼もしい事業所も地域には有るようである。では、サービスを受けられずに困っているケースを、そういった事業所に結びつけるにはどうしたら良いか？

すずらん：介護保険を使わずに実費で利用することや家族の送迎で利用することもできる。ケアマネを通しての利用となるため、まずはケアマネに相談して欲しい。

むつみの園：地域包括支援センターで相談を受けてもらえたら良いのではないかと。

ゆうゆう村：緊急性のあるケースは、空きが無くても、調整して優先的に利用できる場合もあるので、まずは相談して欲しい。

落合の里：入所施設での受け入れは難しいのが現状だが、通所には空きが有ることをケアマネに伝えていく必要がある。ケアマネだけでなく他の職種も社会資源についての知識を持ち、家族へ情報提供し、サービスへ繋げていくことが必要ではないか。断るだけでなく、どうすればよいか一緒に考えることが必要と思う。

フロア：包括が、良く動いてくれたことで、事業所間の情報共有がスムーズに行われ、助けられた経験がある。

フロア：サービスに結びつけたくても、本人と家族が拒否するケースや、送迎など物理的な問題でサービス利用困難なケースがある。暴力がでる方でも受け入れ可能とはいっても、他の利用者への影響を考えると断らざるを得ないこともある。

フロア：ケアマネが、施設のことを十分に理解していなければ、家族や本人に説明できない。文字や写真だけでなく動画なども取り入れて、家族や本人がよりイメージしやすい形での紹介や説明を考えていきたい。

むつみの園：実際に知ってもらうことが重要。そのため、施設の見学や一日体験を行っている。送迎も行い、体験については、昼食代のみで利用料は無料。

まとめ：

4 施設の担当者の方にご参加いただき、地域における各種支援サービスに関して有意義な議論が行えた。これまでの協議会では、備北地域において提供できるサービス資源の数は不足しているという共通認識のもと、数的に限られたサービス資源の有効利用について考えてきたが、今回、サービスによっては希望に即応可能なゆとりの有るサービス、事業所があることがわかった。今後は、限られたサービス資源をより必要としている人に優先的に振り分ける方策だけでなく、ゆとりの有る利用可能なサービス資源の情報を共有し利用に繋げる方策についても検討していきたい。